

令和3年度日南市立飴肥中学校 学校の自己評価及び学校運営協議会委員評価書

4段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

評価項目	評価指標	方策・手立て	学校の自己評価コメント	自己評価		協議会 評価	○ 結果の考察・分析、改善策 ※ 外部評価のコメント
				項目	総合		
(1) 【知育】 学力向上 の実	◇ わかる授業を実践する。 ○ 全体的な数値目標を設定し、年度別の目標を設定し、指導の充実を図る。	1 「めあて」「学習課題」「学習目標」と「まとめ」の整合性 2 見通しのある授業 ・ 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業 3 特別支援教育の視点を活かした学習環境づくり	○ どの授業においても「めあて」と「まとめ」を板書で表示することに努めた。また、見届けと確認のための単元テストを実施してきた。これらにより、評価が高まっている。 ○ 生徒に授業の見通しをもたせるために、板書又はラミネートカードでの表示を実践してきた。これらの取組により各学年で成績の向上が図られた。今後は表示の仕方を研究していきたい。 ○ 特別支援教育は本校の課題の一つである。これまで特別支援教育の視点を意識した授業を実践してきた。今後はさらに学びのユニバーサルデザイン化に努め、特別支援教育の充実を図っていきたい。	3.32 3.38 3.06	3	3	○ 「めあて」「まとめ」の板書や単元テストの実施における成果は大きい。 ○ 対話的な授業は、コロナ対応で十分ではなかった。 ○ デジタル教科書やタブレットを活用することで授業の工夫がなされている。
(2) 【徳育】 生徒の 指導 の実	◇ 組織的な生徒指導の確立を行う。 ○ 数値目標として近づく。 ◇ 3年間を見通したキャリア教育を目指す。	4 生徒指導（特別支援学級含）における共通理解や共通実践の場を設定し、生徒指導主事を中心に体制を確立する。 ・ 火曜日の1校時：校内定期教育支援委員会での対策協議 ・ 火曜日の3校時運営委員会での情報共有・対策決定 ・ 次週月曜日の職朝での共通理解・共通実践 5 意図的・計画的なキャリア教育の「生き方」（自立・共生・感謝）指導 ・ 各学年の具体的な教育活動 ・ キャリア・パスポートの活用	○ 毎週、段階的に生徒指導の共通理解を図ることができたことにより高評価となった。ただし、今後、指導や支援が必要な生徒は在籍しているので、継続した取組が必要がある。 ○ 自立・共生・感謝をキーワードに全学年でキャリア教育を実践できた。特に立派な発表を行うことができた。今後も生き方教育を全学年で実践していきたい。	3.58 3.39	3	3	○ 生徒指導の共通理解と実践を図り、誰一人取り残さない体制がとられ成果も多い。 ○ 特別支援学級等も含めて、生徒に関する情報共有がよくなされ、指導に生かされている。 ○ 計画的なキャリア教育が充実されている。 ○ 地域住民や保護者も共通意識をもち、一緒に成長していけるとよい。 ○ 安心安全に過ごせる環境づくり、美化活動にも興味をもってほしい。 ○ 生徒指導の体制づくりがしっかりと確立されている。
(3) 【体育】 安全の 教育 の実 健康の 教育 の実	◇ けがや病気の見落としがない保健室経営に努める。 ◇ 日南市「いのちの教育」の充実を図る。 ◇ けが等の未然防止のため安全点検を行う。	6 生徒一人一人の状況において、管理職や職員保護者との連携を密にする。 7 自他を大切にしている生徒を育てるために、「いのちの教育」の手引きをもとに毎学期1回授業を行う。 8 毎月1回、安全点検を行い、点検状況を全職員で共有し生徒への指導に役立てる。	○ 毎朝の健康観察や新型コロナウイルス感染症対策を全職員で取り組んでいる。また、養護教諭が発行の保健だよりにより保護者への啓発も行うことができた。コロナ収束を願っている。 ○ 年3回の授業は実施できた。ただし、学級担任による授業が中心のため、次年度は副担任も実施できる取組にしていきたい。また、情報モラル教育との連携を図ってほしい。 ○ 毎月実施している安全点検で危険箇所や修繕の確認ができていた。また、スクールサポートスタッフや教育委員会の素早い対応により、安全な学校生活を送ることができた。	3.48 3.15 3.63	3	3	○ コロナ対策が大変な中、職員と保護者の連携で健康観察がなされている。 ○ いのちの教育に関する授業を、副担任の先生も一緒に行う体制が必要である。 ○ 生徒の健全育成のために外部機関との連携の確立が大事である。 ○ いのちの大切さを生徒一人一人が真剣に考える指がを大事である。
(4) 【特別 支援 教育】 特別 支援 教育 の実	◇ 様々な支援を要する生徒への学習環境づくりや学習支援を充実する。	9 常に生徒の実態把握を行い、個に応じた効果的な指導・支援を行う。 ・ 個に応じた学習環境と居場所づくり ・ 学習支援（SSを中心とした全職員体制） ・ 関係機関、保護者との連携	○ 校内定期教育支援委員会を中心として、運営委員会及び月曜日の職員朝会で共通理解を図ってきたことで、教職員の特別支援教育に対して積極的に関わるようになった。	3.44	3	3	○ 個に応じた学習環境や学習支援について全職員で取り組んでいて大きな成果を上げている。 ○ 色々な特性を持っている生徒が増えているので、外部との連携を図りながら取り組む必要がある。

次年度の方向性についての校長所見

学校目標である「心豊かで志を高くもち、たくましく生きる生徒の育成」を達成するために全職員で共通理解実践を図りながら取り組んできた。今年度は、学力向上への取組に一定の成果が表れ、生徒一人一人の自己存在感が高まった。次年度も特別支援教育を中心に、個に応じた指導・支援のあり方について全職員で研究し、報告・連絡・相談体制をさらに深め、生徒や保護者・地域に信頼され、魅力ある学校づくりに励んでいきたい。また、今年度に引き続き、ICT活用の研修に取り組み、授業力向上と働き方改革に取り組んでいきたい。